

て低いわけではない」と分析している。国は少子化対策として市が取り組む「婚活」を後押しすることとなったが、人口減少対策に取り組む本市としての考えは。

**答** 本市でも婚活支援は少子化対策の一環として重要であると考え。国は少子化危機突破のための緊急対策として、子育て支援と働き方改革をより一層強化するとともに、結婚、妊娠、出産支援を対策の柱として打ち出し、これらを3本の矢として推進することとしている。今後、国の動向を注視していきたい。

**問** 本市では、どのような支援事業を行っているのか、また、実情に応じた支援策、出合いの場づくりについての考えは。

**答** 本年度から、「街コン」形式による婚活支援事業を実施し、10月27日には、「行田街コン」と称し開催したところ、参加者は抽選になるほど盛況だった。

今後も「行田街コン」を継続し、市内在住の方だけでなく市外の方にも広く「出合いの場」に参加してもらい、参

加者が行田の魅力に気づき、行田に定住したいと思えるようなイベントの展開をしていきたいと考える。  
〔その他の主な質問〕  
○がん教育の強化

**消防職員の増員は**  
**新井教弘**  
(黎明21)

**問** 近年予想を上回る災害が起きています。今年に入っては、ゲリラ豪雨や竜巻、台風被害が大変多く発生している。本市においても、まさかの突風被害が南河原地区、星宮地区で発生したが、被害発生後には、市も迅速に対応している。

消防においても、毎日、救急車両の出動が絶えない中、火災が発生すると消防隊員が足りないくらいである。そこで消防職員を増員してはどうか。

**答** 行田市職員定数条例の消防職員定数102名に対し、現在、99名となっている。

定数までの増員については、今後見込まれる退職者や毎年

の財政状況を鑑み、充足について検討していきたい。

なお、熊谷市消防本部との消防通信指令システムの共同運用により、従来配置していた受付職員が災害現場に出動できるようになったことにより、消防力の強化と人員の有効活用が図られている。

**問** 現在の行田市消防団体制になり、40年以上が経過し、以前より市内の地域人口がかなり異なっている。消防団が地域を担当するにあたり、大変な地区もある。

今後の消防団体制はどのように行っていくのか。  
**答** 行田市消防団の現状は、定数270名に対し、262名で組織運用を行っており、97%の充足率である。

議員ご指摘の人口減少にお



出初式(消防団員行進)

ける団編成に係る諸問題については、本年度当初から、団幹部による分団長会議において検討を開始しており、本市の将来を見据え、必要に応じて専門機関等による調査を経て、着実に進めていきたい。

**通級指導教室の**  
**本市の実態**  
**吉田幸一**  
(新政策研究会)

**問** 通級指導教室とは、公立小・中学校の通常教室に通う障害の軽い児童・生徒が障害の状態を改善や克服するため、必要に応じ特別の指導の場を受けられる教育形態である。

対象となるのは、言語障害や難聴、注意欠陥多動性障害(ADHD)や学習障害(LD)などの発達障害、情緒障害などで、対象となる児童・生徒が全国的に増え続けている。

新聞報道によると、本市では小学校2校、中学校1校と示されており、あすの行田の未来を築く児童・生徒の伸び伸びと取り組める状況をしっ

かりと構築することが、まさにこれからの教育につながるべく、と考えている。

そこで、教育委員会として現時点での取り組みと、今後へ向けての通級指導教室のあり方等含めて、具体的な考え方は。

**答** 保護者等における発達障害や通級指導教室についての理解が以前より進んでいる一方で、保護者からの理解が得られず、子どもへの指導が十分に行き届かないという実態もある。そのようなことから、今後、各校での教育相談を充実させ、保護者の理解を得ながら児童・生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導が受けられるよう努めたい。

また、通級指導教室の指導に当たっては、特別支援教育の専門的な知識を持つ教員が求められることから、指導者の育成とともに、発達障害・情緒障害通級指導教室の増設、新設については状況を判断しながら計画的に検討し、県にも働きかけていきたい。今後も、子ども達一人一人に対応できるよう、通級指導教室の充実を図っていく。